

会 議 録

会 議 名	平成22年度第2回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	文化推進係 はけの森美術館		
開 催 日 時	平成22年7月30日（金）午後6時から午後8時		
開 催 場 所	はけの森美術館 2階		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 淀井彩子委員 千村裕子委員 鈴木茂哉委員 (豊岡委員代理) 神田恭司統括指導主事		
欠 席 委 員	宮村令子副会長 豊岡弘敏委員		
事 務 局 員	薩摩雅登学芸顧問 大野玲学芸員 神津瑛子学芸員 荒木和学芸員 吉川まほろ主査 中嶋登再任用職員		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 開催事業の結果について</p> <p>(2) 事業等の予定について</p> <p>(3) 会議録について</p> <p>(4) その他</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 次回運営協議会日程について</p> <p>(2) その他</p> <p>3 審議事項</p> <p>(1) 美術館2階部分及び茶室改修について</p> <p>(2) 提言について</p> <p>(3) その他</p>		

鉄矢会長 それでは、平成22年度第2回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催いたします。

## 1 報告事項

### (1) 開催事業の結果について

鉄矢会長 事務局から開催事業の報告をお願いします。

神津学芸員 2010年度所蔵作品展Ⅰの「自然の歌」という展覧会は無事に終了いたしました。22年度の閉館中のワークショップも無事に終わりました、それが「ごらくらくごワークショップ」の報告書です。先週の土曜日、17日から今の展覧会がオープンしております。

2010年度の所蔵作品展Ⅱは10月3日までの開催となっており、ワークショップも企画しています。この展覧会のお知らせと同時にホームページがリニューアルされました。

ホームページなので、モニターで見ていただくのが一番いいかと思うんですが、施設案内と利用案内、過去の展覧会は2009年度だけ印刷しました。あと教育普及活動も2008年の江戸野菜のエコバッグを作ったりなど、昨年度の展覧会以外で開催したものも一連のメニューになりましたので、2006年から今まで過去にどんなことをやったのかというのがわかりいただけるとと思います。

鉄矢会長 追加の報告事項、私から。京都の産学官連携推進会議ではけの森美術館と学芸大学の連携展示ブースの一部として出させていただきました。はけの森の「シネマに恋して」のポスターとチラシが、あっと言う間にはけました。ほかの教育系の大学の先生が質問し、授業の担当の先生は大変だなど言っていたんですけど、いや、授業でやっていませんと言ったら、驚いていました。学芸大の正木先生のご尽力というのがよくわかりました。

### (2) 事業等の予定について

鉄矢会長 事業の予定をお願いいたします。

神津学芸員 秋の企画展の準備を進めています。「新潟市新津美術館 笹岡了一 抽象と具象の狭間で」です。今もお話がありましたけれども、学芸大デザイン研究室とのやりとりもスタートしています。その後、休館して5周年展をやります。5周年展の話も何度も出ているかと思います。今年度の企画展についての質問等がありましたら、お願いします。

### (3) 会議録について

事務局(中嶋) 平成21年度第3回の運営協議会の会議録につきまして、皆様から修正等をお寄せいただき清打ちし。会議録ができ上がりました、ご確認をしていただければと思います。よろしくをお願いいたします。

鉄矢会長 おかげさまで読みやすくなって、私は修正はないです。

千村委員 ほんとうに自分が何を言っているのかと以前は思いましたが、今回はとても納得しました。よかったですと思います。

事務局(中嶋) ありがとうございます。

鉄矢会長 薩摩顧問は。

薩摩学芸顧問 もう私は出しましたが、大事なことさえきちんと書いてあれば、その口調を一々書き出す必要はないと思います、楽になりました。

鉄矢会長 ありがとうございます。

#### (4) その他

鉄矢会長 その他、報告事項ありますか。

事務局(中嶋) 21年度小金井市立はけの森美術館入館者数調べを皆様のお手元にご配付しています。22年度の入館者数調べは7月29日現在ということで、前回にならない作成しています。

薩摩学芸顧問 多分どこの美術館でも、入館者数というのは1つの数字として出てきますが、それが増えたとか、減ったとかでなく、増えたならば増えた理由、減ったならば減った理由がしっかりと説明できればいいんだと思うんです。それができるかできないか。ただ増えればうれしい、減ればがっかりということでもない。その辺の分析をするための1つの資料と認識すればいいことだと思います。

鉄矢会長 今、薩摩顧問からあった入館者数という数に関しての理解の仕方、把握の仕方は皆さん共通認識として考えてよろしいですか。

鉄矢会長 異論がないようで、共通認識です。

事務局(中嶋) 報告事項の第2点、最後のほうでございます。前回の5月26日運営協議会第1回の会議録を皆様にお届けいたしました。修正がありましたら、本日の会議終了の際、事務局に提出していただければと思います。ご確認していただいて、修正があれば提出願います。開催通知と一緒にお送りいたしました。

鉄矢会長 わかりました。

## 2 協議事項

### (1) 次回運営協議会日程について

鉄矢会長 協議事項に入りたいと思います。次回運営協議会の日程について。10月の末を予定したい。

吉川主査 10月中旬より前がいいですね、できれば。

薩摩学芸顧問 中旬より前がいいというと、上旬がいいということですか。

鉄矢会長 わかりました。10月8日の18時からではいかがですか。前原のほう交通の便はいいですね。前原暫定集会施設でよろしいですか。

では、次回運営協議会の日程は10月8日18時、前原暫定集会施設とします。

### (2) その他

鉄矢会長 協議事項、その他ありますか。

荒木学芸員 館長代理で報告を。

吉川主査 鈴木委員が今、別の会議に出席しておりますので私から。はけの森美術館、学芸員の職員体制が変わることになりました。大野学芸員が体調を崩されて今日付で退職されることになりました。1年間付限定の雇用の学芸員を8月10日から新しい方が来るように手配していますので、3名の体

制は変わりません。ご報告させていただきます。大野さん、ご挨拶を。

大野学芸員 急なんですけれども、体調を崩してしまい7月末日付で退職することになりました。2006年のオープンの年に1年いさせていただいて、その次の1年は退職して、いませんでしたけれども、今年で4年目だったんですけれども、残念ながら、あともう少しだったんですが、こういう形でやめることになって残念に思っています。また何かありましたら来ますし、アートフル・アクションとか、とてもおもしろいアートとのかかわり方が小金井市では始まりましたので、体調の許す限りかかわっていきたく思っています。一旦これでやめますけれども、あと、縁がありましたら、またよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。(拍手)

千村委員 残念ですね。

薩摩学芸顧問 顔を出してください。けんかしてやめていくわけじゃないでしょうし、また、これからも紆余曲折あるにせよ、まだまだ発展性を秘めているところですから、交流センターも開館しますし、ここの2階部分ということもありますし、発展性を秘めているところですから、可能な限り顔を出してください。お願いします。

鉄矢会長 ここで一たん休憩にします。

( 休 憩 )

鉄矢会長 22年度第2回運営協議会を再開いたします。淀井委員が出席されました。

協議事項まで終わりましたので、審議事項から再開いたします。

### 3 審議事項

#### (1) 美術館2階部分及び茶室改修について

鉄矢会長 審議事項1、美術館2階部分及び茶室改修について、お願いします。

吉川主査 2階旧居宅スペースの改築等についてということで、中期財政計画に載せないと、この話は前へ進まないと思いましたので、ほんとうは去年の秋ごろに中期財政計画に載せるか載せないかという回答をするものがあったのですけれども、その後はこちらの富子様のご逝去があったということで、最初の回答の時点では、こちらの2階が使えるとか、使えないとかいう協議をするような状態ではなかったのですが、ちょうど4月以降にもう一回追加はないかという調査がありましたので、それには載せなくてはいけないだろうということで、急遽、3月の運協の内容などを踏まえて、エントリーしました。

1,000万以上の工事ということで回答の必要があったんですが、当初はそんなに費用がかからないのではいかという話だったのです。学芸員さんたちも清掃でどうにかならないかと考え、清掃業者に見てもらったのですが、お住まいだったということから、カーペット、壁紙、カーテン全部に、生活の臭いがついている。それから動物がいた、猫がいたということで、そういうものをすべてきれいにしないと美術館としては使えないし、清掃だけでは手の施しようもないということだったので、工事をするしかないのかなということになり、市の建築営繕課の職員に見てもらいました。

そうしたら、カーペット、壁紙、空調設備全面撤去してきれいにするということはもう全面改修と同じで、やるのであれば、きちんとやったほうがいい。一番何が問題だったかという空調設備です。こういう特殊な建物の空調設備なので、温湿度、恒温恒湿の管理がきちんとできなければいけないということで、それを全部やり直すと、最初3,000万くらいかなと言っていたんですけども、最終的に見積もってもらったら、6,000万くらいかかるんじゃないかということをおっしゃられたのです。それを持って財政計画のヒアリングに出たのですけれども、ご存じのように、市の財政状況は大変厳しくて、これは、後から入ってきた計画というような状態なので、建築営繕課長にもこれは住居であったものを美術館にするのであるから、やるならきちんとやったほうがいいということをおかなり援護射撃してもらっているんですが、いかんせん市の予算が目一杯だということで、やったほうが良いというような見解はあるんですが、今すぐにはできない。

改築の必然性の一番の理由としては、新潟の美術館で美術品にカビが生えて非常にマスコミをにぎわせたという問題があるので、恒温恒湿の温度管理、すなわち温度・湿度の管理はきちんとしていかなきゃいけないということで話を持っていったのですが、その話に6,000万は厳しいだろうと。では、何をすればいいかというところ、その食堂と寝室の壁を抜いて多目的ルームを作ったらどうかというような提案をしているんですけども、多目的ルームを使用してどれだけ市民の方に有益かということと、この美術館の予算が年間3,000万弱かかっているんですけども、その3,000万弱を大きくぐいっと上げるだけの費用対効果が改築をしたことで上がるかどうかというところの理由をつけるのが一番大変というか、それが一番基本だろうということをおっしゃられているんです。今後、理事者協議とか、議会とかにかけるための資料を、学芸員さんたちから専門的見地のアドバイスをもらい、事務方で作っているところです。ですので、運協の委員さんからも市民の立場からのアドバイスをいただくと、大変心強いと思っている次第です。

鉄矢会長 補足説明等ありますでしょうか。

神津学芸員 今、吉川さんから、学芸員の立場からと言いましたけれども、学芸員の立場から多目的室について、予想されるメリットとか、あとは、多目的ルーム以外のところだと、別に学芸員室を作ったりとか、いろいろな2階がどうなるとよくなる、ということをお作っているところなんですけど、例えば美術館でこんなことをしてもらいたいですとか、そういったことをお言っただくと、学芸員としては、市民の声、運協の委員からもこういう意見があったというのを踏まえてまた考えていけます。

吉川主査 言いお忘れおました。もうひとつ、財政計画を載せておまして、実は茶室を修復しなければいけないという話がおずっと出ているんですけど、そちらの予算がおつかないということなので、一緒に財政計画の中に載せておます。改築とか、改修というおような形だと、今までも予算を切られたり、あとは、佐藤秀三さんが作ったという建物なので、どうしても佐藤秀工務店におやってもらうのが一番良いとは思っているんですけど、役所の契約の関係でそこへお願

いしますということがなかなか言いにくい部分がありまして、どうしても入札になってしまいますので、今後どうなるかわからないんですけども、一応改修というより修復という形で、文化財として修復できないのかという形で今、話を持っていっています。中村研一さんと佐藤秀三さんのエピソードがいろいろあるんですけども、学術的な説明がないとなかなか難しいということをおっしゃって、今度の公開シンポジウムの際にお願いする神奈川大学の内田先生にちょっと建物を見ていただいて、学術的な見地から茶室の修復の必要性みたいなものをお話ししてもらえないかと今考えています。どうしても財政的な問題で今すぐにとは多分行かないとは思いますが、それも含めて財政計画のほうに説明しているところです。追加になります。

鉄矢会長 ありがとうございます。では、美術館2階部分及び茶室の改修について運営協議会メンバーのほうとしてどんな意見があるか、お聞きしたいと思います。

千村委員 茶室のことで質問ですけども、茶室は改修しなければ全然使えないという状態ですか。

荒木学芸員 そうです。一部腐食したり、虫が食ったり、弱くなっている部分があって、補強しないと人が出入りするの危険な状態という話です。

千村委員 茶室がちゃんとしてから借りたいという人たちは結構いまして、どうして茶室を貸してくれないのといつも会うたびに言われるぐらいで。

荒木学芸員 実はきのうも電話でお問い合わせがありました。

千村委員 そうですね。お茶をやっている人はそういう要望がとともあるので。でも、それは修復しないと使えないとしたら結構大変だと思います。

鉄矢会長 多目的講義室はぜひ水を使えるようにお願いしたい。のびのびワークショップができる場所は1つあると良い。それがほかの作品と展示等と緩衝しないように、完結できるような形でやるなど工夫する必要がある。美術館として教育普及に力をつけるこの美術館としてのありようとして、あるべきです。

薩摩学芸顧問 今日、どこまで話が進められるかは私もまだつかめていないんですけども、ここに使用方法案として出ているものですが、まず、この方向で考えを進めるのかどうなのか。そこがまず決まらないと、多目的講義室にするのか、しないのかということにもなるかと思っておりますので、まず、そこをちょっと考えてもいいかなと思うんですが、いずれにせよ、この美術館の創立のときからかかわっていた者としてしましては、とにかく事務及び学芸の仕事をするスペースが受付を兼ねているあそこの部屋しかない。これは、あれは狭くてかわいそうとかという次元ではなくて、あそこで予算がどうだとか、採用試験がどうだとかという話をしていればお客さんに聞こえてしまうわけで、あれでは幾ら何でも困るということは絶対的にあると思います。ですから、何らかの形で学芸員だけかどうかわかりませんが、受付と離れた場所に学芸、あるいは事務作業ができるスペースは必要かと思えます。

それから、この建物はなかなかいい建物で、これからうまく使っていけ

ばいろいろなことができるかと思うんですが、収蔵庫をごらんいただければもう満杯だということを考えれば、どうあがいてもそういう倉庫か、収蔵庫か、展示備品倉庫か、そういう言葉はともかくとしましても、収蔵スペースは必要であるということが第2点。

それから、たまたまネット、WEBのことがありまして、いろいろな活動記録が出ていますけれども、今までいわゆるワークショップとか、そういうことをやろうと思うと結局1階の展示室を展示室としての機能をつぶして、つまり、展示と展示の間に非常に大きな期間をあけて、その間にワークショップ的なことをしなければならなかったということで、1階と2階の展示室を展示室機能としてきちんと特化させていくためにはワークショップを行うような空間が必要であろうということから考えていくと、この割り振りでいいのかはともかくとしましても、ここに出ている機能としては、私はかなり妥当なものでないかと思っております。この割り振りでいいのかどうかということも含めて、まず、こういう機能でよいのかどうかということを少し審議いただいて、あるいは承認いただいて、その上で例えば多目的講義室は、ワークショップ室でどんなことができるかというような話を展開していけばよいのかと思います。

鉄矢会長 薩摩顧問からご提案がありました使用方法案についてもう一回、再確認をして、それからまた意見を頂きます。

淀井委員 前にもこの案を聞きましたけど、最低限こういう感じにはなるだろう。どれも必要なことですね。学芸員室が果たしてこれで十分なのかというのはちょっとわからないんですけど、収蔵庫、展示備品倉庫。備品倉庫というのはどういうような。

荒木学芸員 学芸員の中で考えているのは、備品倉庫としていますが、実際には例えば講師控室であったりとか、あるいは多目的講義室で、そのときには使わない机やイスを一時的に収納したりですとか、そうした控室、あるいは準備室的な使い方ができるのではないかと考えています。

薩摩学芸顧問 そういうふうにしたほうがいいんじゃないですか。つまり、多目的講義室、ワークショップの部屋を用意すれば必ず、例えばそのための講師控室、準備室、あるいは多目的講義室で使用しないもの、するものの出入りをする部屋が必要になるので、だから、展示備品倉庫と言うと展示室の附属の施設みたいに見えますけれど、多目的講義室のほうも準備スペース、控室というふうに、そういう機能が重要になると思います。

鉄矢会長 私から質問。構造的には、この間の壁が抜けるというのは確認がとれているのでしょうか。

吉川主査 構造的には抜けるのではないかと。今のところ確定ではありませんが。

鉄矢会長 わかりました。

吉川主査 ただ、全部、柱が残るとか、そういうことはあるかもしれないけれども、構造的には一体的になりそうなので、壁を抜く事に特化していえば予算としては大したことはないと言われていました。

鉄矢会長 多目的講義室の出窓の部分が真っ暗にしにくい空間になっています。手前は1個の窓をきれいに閉めれば真っ暗にできます。もう一つは真っ暗に

しにくい、そうすると、2つに分れていたままで使い勝手が違うのもあり得ます。大きい部屋は多様に使えるのだが、ワークショップをやるときに二グループに分れたときに、安全管理上見えにくくなります。ワークショップがどのぐらいの人数をやるか。学芸員が1人でワークショップと講義もやっていくときに4グループぐらいであれば、この部屋の一体化はしないと検討の余地があるのではないか。

2室をくっつけた感じのものが2階展示室と同じような大きさです。同じ大きさに作っていくよりは、小さい部屋も使いやすい。小さい部屋にして、特別展示ではないが、良いものここに、展示するような場所にも使えます。

荒木学芸員 二部屋のままですと面積としては非常に中途半端になってしまいます。国立新美術館の3階に研修室というのがあります。新美術館は建物はとても大きいんですけども、研修室というのがちょうどここにある図の二部屋を足したのとほぼ同じ面積の部屋でして、少し前に見学させてもらいに行きました。同じように、水場があつて講義にもワークショップにも使う部屋の例として。実際、部屋に入ったところ、これぐらいの広さがないと30人から50人ぐらいを呼んでの講演会やワークショップはちょっと難しいのではないかなという感想を持ちました。

鉄矢会長 つながったとしても、いびつな室形なので、スクリーンの位置や座席配置が気になります。

淀井委員 小さく使うこともできるわけですね。

荒木学芸員 例えばアコーディオンカーテンで仕切るなんていうことも可能だと思います。

神津学芸員 あと、机がある作業とない作業とを一緒にするとか、スペースを使い分けるなど。

淀井委員 壁があるままだと全く離れた空間ですね。取るのもいいかもしれないですけど。

鉄矢会長 1階から2階に上がって、2階の建物として吹き抜けの周りなんかを回遊して、また下に戻っていくような展示品を見て回遊するというのは今、考えていないのか。

神津学芸員 むしろ、今ここでワークショップをやっていて一番怖いのが、2階展示室に行ってしまうのが怖いんです。それにここは半オープンというか、エレベーターを使うお客様はここを使わなければ展示に行ったり来たりできない。開館中にやるワークショップは、あしたもやるんですけども、ここを一般のお客様も通る。ここを出たら、すぐに陶器がごろごろしている展示室というのが一番怖いことなので、あまり回遊するというよりは、開館中に安全にワークショップができるということを重点に置いています。

鉄矢会長 わかりました。

淀井委員 そうですね。回遊式は魅力的ですけども、危険ですね。それぞれ監視がいるわけじゃないから、どこへ行くかわからないですね。

薩摩学芸顧問 学芸の作業室、倉庫、収蔵庫、この辺は既に展示室があり、倉庫がありというのでほぼ問題ないだろうと思うんですが、ここでいう3の部分と、



その右隣のトイレの部分と多目的講義室、この辺が大体トイレをどうするかという問題も含めてここで結論が出るものでなくて、大体これでいいという形での承認ならいいと思うんですけど、もう少しすっきりとしたプランにならないのかなという気がします。

鉄矢会長 この壁も多分取れるのではないかと予想します。ここの外の壁面、内壁のこの壁面が大きくなるとすごく使いやすい。ここから準備室に直接入れます。ここの壁をいじっていいという話で、設計し直すというのはあると思います。壁をいじっていいという情報がわからないまま進めるのはよくない。ここをもう少しすっきりさせていけば、もう少し使いやすいようにできます。トイレの位置をずらすとか、トイレを裏、わきから入るなど可能性はあります。そうすると、普通、ここは閉まっているけれども、ここをあけるとここが入れるようになるとか。中庭が見えるというのも実は魅力になります。

薩摩学芸顧問 つまり回遊式ということをやらないならば、今、鉄矢会長が言われたように、ここのところはなくなってもいいんです。

鉄矢会長 そうです。回遊式がない分別の魅力をつくるのです。

薩摩学芸顧問 ですから、基本的には、要するにここに学芸事務を含めた仕事スペースを作る、収蔵庫を作る、多目的講義室、ワークショップの部屋を作る。3つの機能を持つてくるということで、多目的講義室でどういうことができるかということはまだこれから考えるとして、ちょっと細かなテクニカル的な方法論に関しては、ここはもうちょっと考えていく必要があるでしょうね。

鉄矢会長 壁を取るとか、床を変えるということになってくると、設備配管も場合によっては移動できます。水は移動できるとかいうことも可能になるので、ここのところは設計側等も含めて打合せをすべき。改装ではここだけはしっかり、そこは使いやすい水の位置を変えると予算のメリハリも大切です。

図書資料室がこの部屋ということは、図書資料をどんなふう置くことをお考えなのか。ここの一番メインの広いテラス、大きなガラスのところをどのようなイメージしていच्छやるのか。

荒木学芸員 これはかなり早い段階のもので、現在の考えとはちょっと違っていています。基本的には従来どおり、半オープン。例えば無料開館日のように入館者がたくさん来る日にはエレベーターのところをオープンにして、自由に回ってくださいという形に、また、そうしたときには開けて外の景色が見えるように。あるいは、かつての中村富子さんがいらしたころの雰囲気を残す、例えば調度品などを置いて、あるいはパネルや資料などを展示して、この館の歩みみたいなものが偲べるようなちょっとした展示などができればいいのではないかとというように、幾つか考えているところです。

鉄矢会長 それは美術館という中でのコミュニケーションを誘発するようなアートサロンみたいなものをイメージしていると考えて。

荒木学芸員 休憩や一休みできたり、その間にいろんな資料を閲覧できたり、それこそ気楽なトークイベントみたいなものやったりということも可能な

と。あと、ここは結構資料類がたくさん残っているんですけど、それを展示する機会はあまりなかったり。

神津学芸員 展示するような資料じゃないもの、だけど、お客様にしてはちょっとおもしろいなというようなものが、富子様が作った研一の絵の再現の陶器とか、そういうものなんかも置いておけたり、楽しんでいただけるんじゃないかなと。

鉄矢会長 例えば、予約なく来た先生と子供とかはここで少しお話をするとか。予約して来ると講義が準備されていたり、講義室が何か準備をしているときにここで少しできるというイメージですね。

神津学芸員 ちょっと何か書いたりするものとかにも使っていいと思います。

淀井委員 例えば図書というところのぐらゐの分量があるんですか。本ってすごいですよね。

荒木学芸員 何種類か。まず、中村研一旧蔵の図書、これらはなかなか貴重なものなので、なかなか表へは出せませんが、場合によってはコピーを作るといふことも考えられる。それから、当館が記念美術館だったところに集められた資料ですとか図書。

鉄矢会長 小さな美術館の案内がここにあっても良い。小さな美術館だからこそ、違ふ館をお勧めすることもできます。

神津学芸員 今、入り口を入れてすぐのところのちよつとだけあるものの拡大版を。

鉄矢会長 配付資料にあるこの図書資料室という文字は、無視してよろしいんですね。

荒木学芸員 はい。

薩摩学芸顧問 そのほうがいいと思います。図書資料室というと書架があつて、閲覧室みたいになつちやいますので、ここの立地条件からいつても、あるいはテラスのことからいつても、ここはまさにちよつと憩いのスペースみたいな、今、委員長がアートサロンと非常に気のきいた言い方をされましたけれども、そういう場所になつていくと思うんです。だから、ちよつと図書資料室というのはイメージとして僕は多分違つてきます。こういうのは、ネーミングが、それがそのまま行くかどうかわからないですけども、特に予算を取つたりするときというのは大事なんです。だから、ある程度決めて、例えば学芸員室なら学芸員室でもいいんですけども、収蔵庫で。ここは図書資料室ではなくて、いわゆるコミュニティーの場所だといふ位置づけになつてくると。

鉄矢会長 人がいっぱい来る美術館といふのももちろん活性化なんですけれども、来た人がしゃべり合える美術館といふのも活性化の1つのあり方でしょう。その仕掛けがうまくできるのは、ほんとうにこういうリピーターが多い小さい美術館だったらできます。1番は学芸員室、作業室といふ名称を学芸員室にします。4番、倉庫、収蔵庫。

薩摩学芸顧問 5番をどうしますか。多目的講義室。もうちよつと良い言い方はないですか。

鉄矢会長 教育普及活動室とか、目的がはっきりわかる名称はいかがでしょうか。

薩摩学芸顧問 名前まで決めなくてもいいにしても、そうすると、それがあつて程度イメ

ージがはっきりすれば、今のところ、3番がそこへの。準備室。

鉄矢会長 教育普及活動と教育普及活動準備室ですね。

薩摩学芸顧問 とりあえず、例えばワークショップ室ぐらいにしておいて、そして、ワークショップ準備室にしておいたらどうですか。

神津学芸員 講義もできるようにしたい。だから多目的としたんです。ワークショップルームだとワークショップだけの部屋ですけれども、でも、実際にシンポジウムをやるにしても、ちょっとした講演会をやるにしても、会場が美術館から遠かったりとか、押さえるのにすごく時間がかかったりとかしてうまく動かないことがあったりするんで、単純に50人入るということで基準になっている。

淀井委員 両方書けばいいんじゃないですか。ワークショップと両方書いておけば。何でも書いておいたらいいと思う。

薩摩学芸顧問 ワークショップ・アンド・レクチャー室にしておけばいいでしょう、ワークショップ・アンド・レクチャー室。それで、こっちはワークショップ・アンド・レクチャー室準備室でも、ワークショップ準備室でも、それは。6番、アートサロンっていいじゃないですか。

鉄矢会長 今の6番目がアートサロンになります。そういうことを踏まえて、多少変更は学芸員さんにお任せし、間取りは我々も同意しますでよろしいでしょうか。

千村委員 名前が変わることによって大分いろいろ空想が変わってきますね。今まで書いてあった名前と違ってくると使い方までイメージが沸いてきていいと思います。

鉄矢会長 では、間取りはオーケーを受けたということで、さらに今の間取りのイメージを膨らませるようなご意見等ありましたら、よろしくお願いします。

## (2) 提言について

薩摩学芸顧問 これは学芸員のほうでは、どんなことができるなんていう腹案を少しは用意しているんですか。

神津学芸員 今、とりあえずどれだけ改善されるんだろうというのを一番楽しみにしていて、具体的なものはないんですけれど、ほんとうに現状だと荷物を置いてもらうスペースすらない状態でいろいろなワークショップをやっていたりするので、連続のワークショップができるなと思っています。おけいこごとじゃないですけど、開館中の毎週何曜日の午後、はけの森で何か楽しいことができるとか、いろんなことができれば。あと、作品を置いたままにして次の週に続けられるので、そういう点でも連続ができるなと思っています。次回、9月は万華鏡を作るんですけれど。例えば別々の講師の方、別々の分野の講師の方をつなげたワークショップができるかなと思っています。1週目はだれだれさんによってこれをこうします。こうしたものを使って、次は全然、ちょっと今具体的にだれかあるわけじゃないんですけど、休憩時間に話があった、奈良でコレクションをするという、子供たちが作った服でちょっとモデルさんというか、自分たちで歩いてきて、自分たちで歩いて写真を撮ってというのがあったんですけど、学芸大が今、研究な

さっているものですね。

鉄矢会長 はい。ナラコレというんです。

神津学芸員 はい。それを例えばはけコレでやるんだったら、1週目は、服を作る。2週目は、それを着て歩く練習をしてみる。モデルウオークを習うだけでも全然、自分の表現というのは楽しいと思うので着てみる。3週目は、それを写真に撮るといので、別々のものを1つにつなげて、1つのものにするというのができたりするんじゃないかなと。

淀井委員 おもしろいかもしれないですね。

神津学芸員 それで1カ月、週に1回やれたら、4回を通して1つのものを作って、毎週違うことをやって、それが同じでといのでいろいろなことができるかなと思っています。

鉄矢会長 そうすると、サロンも生き生きしてくるでしょうし、生涯学習としての場としても多世代交流につながって、市民の活動の場としても生かされる空間になるのではないかと私は思います。

神津学芸員 サロンで作ったものの記録なんかを見られるようにしたらおもしろいんじゃないかと思うんです。

淀井委員 今ので4回、1カ月ができますね、写真撮るのまで入れると。いいですね。

鉄矢会長 さらに元気がよければ、外へ行って写真を撮るとか、ものすごく有機的な活動につながりますね。

淀井委員 幾らでも伸ばせますね。

薩摩学芸顧問 今、神津学芸員がかなり本質を突いた発言で、つまり、これが独立してこういう部屋ができると、展示スケジュールと関係なく、ワークショップといいましょうか、それが定期的にできるということなんです。これが一番大きなことなんです。1カ月に毎週1回、何曜日の何時にはこれをやっていく。こういう企画を続けていくということが今まで展示とか、交互の変わり日にやっていますから、それがどうしてもできないから、言ってみれば単発物でしかできなかったのが、シリーズ物ができるというのが1つの大きなことです。

鉄矢会長 今、聞いていると非常に好感が持てるのが縁遠い美術ではなくて、身近な美術という点。身近なものをもう一回、見詰め直すことで、美術が見えてきます。教育普及につながるものではないかと感じました。

吉川主査 この間、学芸員さんとお話しさせていただいたときに、私の琴線を非常に揺さぶった言葉が小金井らしさのエッセンスをどこで出すのかということなんですね。地域の美術館として目指すものは何なのかということ学芸員さんお二人が何度も言っていて、このはけの森美術館が小金井らしさの情報の発信基地になってほしいということと、あとは、小金井市の文化関連の中心として動いていくために、多目的、さっき名前が変わったんですけれども、この改築がそういう形で生きていってほしいなという意気込みを感じたところと、そういう話でもって予算獲得に、事務方としては行きたいなと思っているんです。

今言っていたらしたように、連続して講座ができるようになるということ

と、世田谷美術館の美術大学のような年間講座でやっていくということで、サポーター制度を作っていくようなこともできるんじゃないかということもおっしゃっていましたし、あとは、小金井市らしさということで、文化財センターと組んではけの歴史や美術を一緒に考えていくとか、あと、市内に結城座さんがありますので、結城座さんと一緒に何か人形使いの養成講座であるとか、小道具方の養成講座であるとか、何か一緒に生きた講座をやっていけないかということとか、あとは、江戸東京たてもの園と組んで何かやれないかとか、文化の中心にここがなることがこの改築の大きな目的なのかなというところの話はこのあいだしたんです。

あとは、学術的な中村研一の研究施設であるということも見逃せない話でありまして、要は美術館と、これからできます交流センターと、今活動が始まっていますアートフル・アクションの3点をつなぐようなことの中にここがなればいいかなと私も思いますし、そういうふうになっていけたらいいなというところを踏まえて改築の話を持っていけたらと私は思っています。

鉄矢会長 今話を聞いていかがですか。

千村委員 展示だけですと、一度展示を見に来れば、友達を案内するようなくあいで何回か来る人もあるかもしれないけど、大体は1回ということになりますね、展示期間。それがこのよう市民がいろいろワークショップをしながら、1カ月同じテーマでかかるとかとなると出入りする人たちも多くなるし、いろいろな人たちが入ってきて年齢的にもいろいろな人が来るだろうし、そういう意味でとても美術館としては今まで以上に活性化される。活気があり、みんなに興味を持たれるような存在になるかなと思います。だから、とても期待が伏線というのかな、単発の展示だけじゃないということがとてもこれからの森美術館の活性化みたいなものが想像できて、なかなか魅力的だと思います。

鉄矢会長 ありがとうございます。

鈴木委員 今回、改修ということで、ここでいろいろプランが出ておりますけれども、経営的な面から、角度から見ますと、この改修によってどれだけ収益が見込めるのかというのはどうも1つ大きなところだと思うんです。今まで美術に興味がない人でも、はけの森美術館に行けば何かおもしろいことがあるみたいな、そういうふうに思っただいて、新たなお客様の層を開拓していくみたいなものについても一定、視野に入れる必要があるのかなと思うんです。高いお金をかけて、もし改修するとすれば税金を使ってやることになるわけですから、当然収益をどの程度というようにことについても検討材料なのかなという気はしています。

鉄矢会長 今の多分収益とおっしゃるのは、もちろん金銭的な収益の場合もあるし、自己実現みたいな人間的な収益とも考えてよろしいんですね。個人、市民それぞれがポジティブに自己実現に向かうことも収益の益のほうに入れていいと思ってよろしいですね。

鈴木委員 はい。

鉄矢会長 新しいお客さんというのに、教員を浮かべました。教員たちが今やって

いる教科研究を美術館でできたら良い。理科の先生たちがボタニカルアートの話をやろうとかといったときに、学校の教室でボタニカルアートをやってもきっと楽しくないと思うんです。アサガオの観察はどうやったらもっと研究できて、もっとおもしろいことができるんだろうとか、そういうものをもし美術館で開けるようにしてあげて、美術館で観察の絵と美術の絵の違いとか、生活科でやるものとか。違う教科が合同で教科研究会なんかができるといいですね。先生方も多分異空間でやることによって違う脳みそが動くんじゃないかと思います。ひいては市内全員の子供に影響を及ぼすことになりますので、新しい客層と言ったらおかしいですが、新しい研修の場としても活用できるのではないのでしょうか。

淀井委員 そういうものを美術館側が用意して、この期間にどうぞというんじゃないなくて、そちらの大学の先生方とか、いろんな方々が美術館のほうに、こういうことができるとわかっていれば、アピールして企画をどんどん出していくようにしないと荷がどんどん重くなりますね。外側から働きかけるような何かができるといいと思うんです。

千村委員 さっきお話があったサポーターというのはそういうような役割という意味ですか。

淀井委員 違いますよ。それはボランティアの人。

千村委員 どういう感じになるんでしょうね。

淀井委員 世田谷美術館なんかのサポーターというのは大ベテランのボランティアの方ですね。美術の解説をしてくれたり、そういう人だと思っんです。

荒木学芸員 当館の場合、解説は可能かわからないんですけど、例えばイベントと一緒に手伝ってくれるとか、その人の得意分野を生かした何か。まず美術館を助けて支えたいとか、大事にしたいと思ってくれる層を増やすところから始められたらと考えています。

淀井委員 それは非常に大事ですね。そういう人たちを養成するというか集めていくということは。

鉄矢会長 淀井先生のおっしゃっている確かにこの美術館の持っているアートに関する知の部分はどういうふうにご利用するかという、そこにある意味、図書館にある共同閲覧室みたいな格好で活用されると良い。ここに来るとアートに関する知があって、共同閲覧室で研修ができる格好になったり、教科教育の先生方が集まって違う分野のできるんだというものになると、さきなど言った大学側から、そういうものできる場所だ、そういう資料があるんだと認識されます。

淀井委員 そうすると、少しまた学芸員の方と違う人が必要にならないですか。そういうものを受けて立つ。

鉄矢会長 コミュニティ文化課の中のだれかが美術館との窓口の専門になるとか、美術館の中の情報をよく知っていると、大学が美術館に尋ねるんじゃなく、コミュニティ文化課に尋ねるとこの辺のスケジュールが共有できるみたいな、コミュニティ文化課の中で美術館担当の常勤という方がいると、淀井委員のおっしゃるようにスムーズに美術館を支えて活性化していきます。

淀井委員 活性化するという事は忙しくなるということですから。

鉄矢会長 今は、学芸員がどうしても交代制になっています。そうすると、常勤の役割の情報を集約している人がいない。コミュニティ文化課の中に常勤的な人がいたほうが確実なのではないかとか。でも、そういう情報を集約したり、発信するシステムとしてのコミュニティ文化課の中に1つ何かが出てくることによって、美術館の持っている事務の一部がアウトソーシングできるような格好も考えられるのではないのでしょうか。

淀井委員 自分がかかわらないと興味は持てないんです、だれでも。

鉄矢会長 お話は尽きませんが、時間はあと5分で8時となりますので。そろそろ閉会に向いたいと思います。

薩摩学芸顧問 ベテランの大野さんがいなくなりましたので、今、事務方のほうは、この多目的講義室ができればどういう効果が出るのかというような資料が必要なんだろうと思いますので、今のことを踏まえてと少し私のほうで見解をまとめます。

鉄矢会長 はい。よろしくお願いいたします。

ほかに言い忘れていたりしていることはありますでしょうか。審議事項提言について、薩摩顧問のものをたたき台に提言を作っていくということ良いでしょうか。我々も、提言にかなり意見を出しましたので、皆様いかがでしょうか。(皆様うなづく)

薩摩学芸顧問 1つだけ確認なんですけど、先ほど館長が言われた収益というのは、これだけの改築をする以上、金銭的な収益が上がるということが入っていないとつらいということ。

鈴木委員 それは求められると思います。

薩摩学芸顧問 だから、それは単純な話で、要するに有料のワークショップがあってもいいわけです。ということですね。そうですね。私はずっと調布市のたづくりで連続の講演会とかやっていたけれども、あれなんかは有料だったはずですよ。5,000円ぐらいで5回連続ぐらいの講演会で、採算はちゃんと合っているんです。100人ぐらい来れば、1人5,000円で。

淀井委員 魅力的なら来ますね。

薩摩学芸顧問 100人来れば、私の中から2万くらいもらっているとか。ですから、そういうことも可能なはずですし、もちろんここが活性化してくれば、当然ここへ来て展示室に行く人も出てきますし、あとは、要するに外部の人がここを使うときに、最低限の使用料は取ってもいいのかもしれない光熱水道費に値するぐらいはですね。そんな法外なものではなくて。

淀井委員 外部のというのはどういう？

薩摩学芸顧問 外部というのは例えば教員の方々がここで何かするというようなときに最低限の。今はこの入場料は200円と100円です。決して高くない。光熱水道費ぐらい。そのぐらいのものは納得できる量とはあると思うんです。清掃費に値するものとかですね。その辺はちょっと考えます。

吉川主査 ちなみに、世田谷の美術大学は年額5万円です。

淀井委員 取りますね。

吉川 主査 週2回、火・木で5月から12月。前納です。納入後の受講料はお返ししません。

薩摩学芸顧問 たづくりがそうです。1人5,000円で、私が大体5回の連続を10年近くやってきたんですけれども、1人5,000円で、大体100人ぐらい。50万集める。私がもらうのが1回2万とかで、5回だから10万ですが、あちらに40万入ったわけです。だから、うまくいけばそういうことがやっっていけるんです。

淀井 委員 講師がよくないとね。わかりました。

薩摩学芸顧問 できますよ。

淀井 委員 じゃ、やりましょうか。

### (3) その他

鉄矢 会長 では、審議事項、その他。何か審議するものはございますか。

千村 委員 私、数日前、ある友人から、はけの森美術館に用事で、要望か何かで来たらしいんですけれども、何回か来るたびに学芸員の方が違って、話がしっかり通らなかったの、千村さん、あなた、委員しているんだから、ちゃんとして通した専任の人になるように言ってくださいとおととい言われたばかりです、市内で編集している役の人に。そんなことで、通した専任の学芸員という方がいつも接してくださるといことは大事だなと。その分、皆さん負担が非常にあるということも感じられると思いました。

薩摩学芸顧問 私も美術館を2つ作ってきたので、作るときというのは事務仕事が多いんです。これはある程度しようがない部分はどうしてもあるんです。ただ、ちょっと負担が大き過ぎるといことと、それから、これはオフレコになるのかどうか、館長、こういう非常勤の人でも例えば小金井の事務研修みたいなものというのは受けられないんですか。そういうところで受けて、新しい方とコンタクトができるだけで随分違うんです。孤立したところで本庁との、あるいは文化課との事務仕事をやっていく。人間的なつながりもないというのも1つの問題なんです。もうちょっと、例えば4月に採用された人たちがいるならば、そういう中で必要な研修とか、何かを例えばちょっとは受けられるとか、ほんとうは常勤がいれば一番いいわけです。常勤だったら、そういう研修も受けますので。だから、あまりにも孤立したところで週4日勤務が6日のローテーションを組んで、それで事務のことまでやってというのは閉そく感を持ってしまったというのは、私はあると思うんです。だから、もう少しその辺は、考えないといけないと思うんです。事務仕事を負ってくるのはやむを得ない。これは大学の先生だって半分ぐらい事務仕事なんです。だから、それはもうしようがないにしても、もう少し何とかコミュニケーションというのか、いろいろなことを含めてほんとうは考えていかなきゃいけないんだと思います。

鈴木 委員 先ほど来出ております体制の問題については、開館以来の課題になっているのかなとは思っているんですが、なかなかそれが実現できないというような状況もあり、非常勤の学芸員さんに研修を受けてもらうとか、そういうことについては、職員課のほうにも打診をしてみたいとは思っています。



薩摩学芸顧問 人間的なつながりがあるだけでも、随分仕事というのは楽になっていくんです。職員の事務の財務会計システムの研修ですとか、それを知っているだけでも大分違いますから。

鈴木委員 ないわけではないので、そういう機会があれば、ぜひ美術館の職員にも受けさせてほしいということで話はしてみたいと思います。

千村委員 人のつながりみたいなものがとても大事だということを今初めて聞くことなんですけれども、考えさせられると思います。

鉄矢会長 もともとアネックスみたいに離れていますからね。

淀井委員 期待されることが大きくて大変ですね。

薩摩学芸顧問 でも、いわゆる報告承認の運協じゃなくて、こういう話ができるというのは非常にいいことじゃないですか。

鉄矢会長 審議事項、その他、ほかにございませんでしょうか。

では、平成22年度第2回小金井市立はけの森美術館運営協議会を閉会したいと思います。ありがとうございました。

—— 了 ——